



TITLE:

<批評・紹介>乾隆京城全圖附解説索引

AUTHOR(S):

小野, 勝年

CITATION:

小野, 勝年. <批評・紹介>乾隆京城全圖附解説索引. 東洋史研究 1941, 6(2): 145-146

ISSUE DATE:

1941-04-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/145729>

RIGHT:

う。それ〴〵の關心をもつ專攻分野における實證的研究の着實なる歩みと共に、東洋史を學ぶ以上何人も拒否する能はざる共通の根柢の自覺が必要なること今日に過ぐるはない。本書は少くともこの問題への大きな寄與として、たかく評價せらるべきものと信ずる。

〔宮川 尚志〕

乾隆京城全圖

附解説索引

興亞院華北連絡部政務局調査所發行 非賣品

府縣志の類に附せられた一、二葉の零細な地圖でも屢々役立つて有難い思ひをする。文章で如何に記されたとしても一片の簡單な地圖の存在に及ばない場合は必ずしも其の例に乏しくはないであらう。北京などに就いても矢張りかうしたことが云はれるのであつて、日下舊聞考を始めとし幾多の史蹟關係の書籍があるにも拘らず、これらには殆んど地圖が存しない爲、其の位置や狀態を明かにするに困難する場合に逢着することが稀れではない。然るに今から數年前、故宮の内務府造辦處輿圖房から最大にして最古の北京市街圖が発見された。其の経緯に就いては既に今西學士が本誌第四卷第六號に「乾隆北京地圖に就いて」と題して紹介されたところである。だが残念なことにはかうした見事な地圖があつたとしても、これを利用することは限られた者のみに許されるに過ぎず、更に事變前、中國營造學

社が出版を計畫すると云ふ様なことも無いではなかつたが、寫眞撮影に止り、未だ印行するには至らなかつた。それを先般、たま〴〵同學士の紹介に依つて知り得た興亞院華北連絡部政務局調査所が複印することゝなつて、研究者の便宜に資せられる様になつたことは誠に嬉しいことであつた。

原圖は大約六百五十分の一だと云はれるが、複印圖は更に原圖の十六分の一に縮寫したもので、従つて二千六百分の一の地圖として再現された譯である。今披見するに、コロタイプ版に依つたが、技術の至らぬ爲文字など不鮮明となつたところも認められる。然し兎も角現地の印刷屋の仕事としては上出来と云はねばなるまい。而もこの缺點は索引に依つて全く補はれて居る。此の地圖は宮殿樓屋橋梁池川の類が一々詳細に鳥瞰圖式に描かれ、勿論蠡魚の損じた部分も少くないが、これに依つて配置のみならず、建築の様子なども窺はれるのである。面白いのは北堂の天主堂には十字架が現はされ、その左右には龍が居り武英殿には例の香妃が用ひたと俗に傳ふる浴德殿のトルコ式風呂があるかと思へば、天驛寺の風呂は未だ築造されて居なかつたと見えて何等記すところがない。其の他かゝる例を挙げたら際限がない。猶附屬の解説は今西學士の執筆になり、本圖の體裁と規模を述べ、繪修年代を考證し、其の源流を考へ、此の圖以後の製作にも觸れ、清朝時代遂に比肩すべき地圖の作成せら

れなかつたことを明かにして居る。行文流麗、簡にして要を得た解説である。唯だ慾を云へば本圖の源流を考へるに際し、「とまれ清皇城宮殿衙署圖は乾隆京城全圖の母胎に他ならないのである。更に清皇城宮殿衙署圖の母胎源流はデユ・アルド北京地圖へと溯るであらう」と論じて居る點である。勿論、學士が本圖の科學的な測量技術を重要視されて、康熙時代歐人に依る北京地圖作成の事實あるを指摘され、其の影響のこゝに及んで居ることを述べられたのは卓見だと考へる。然し其の證明に當り地圖其物に就いてはかゝる影響の存在を殆んど明示されて居ない。蓋し宋の平江圖などの場合を思ひ合せても繪畫的描法を以てし、而も相當正確だと思はれる技術の收得が支那では可成り古い時代から行はれて居る。従つて六百五十分の一といふ様な大きなスケールの場合だと正確の度合も割合に多いと解せられ

正確な度合を以ては直ちに外的影響を證明する手段とはなり得ないであらう。更に學士は「明代頃に見られる幼稚な支那的描法、繪畫式描法云々」と云ふ様な言葉を用ひて居られるが、南京の故宮のプランと北京のそれとの類似を推測しても、さうした幼稚な地圖描寫術を以てしてはかうしたことは殆んど不可能ではあるまいかと考へるのである。これ等に就いて更に一步懇切な論及が欲しかつた。然しそれは兎に角、學士の異常な努力に依つて、かゝる稀覯な資料が印行せられるに至つたことは學界の慶事と云ふことが出来る。これに依つて、將來北京史蹟學の進歩は一段の飛躍を遂げるであらう。勿論本圖も發行部數が限られて居て誰もが容易に入手出来る譯ではない。然しさうした慾を云ひ出したら固より切らないことである。

〔小野 勝年〕